

 B. 各支部から

埼玉県小児保健協会から

埼玉県小児保健協会支部長
Rabbit Developmental Research
平 岩 幹 男

埼玉県小児保健協会は昭和46年11月30日に設立総会、昭和47年6月17日に第1回の研究会が開かれ、それから平成22年まで途切れることなく活動を続けております。初代の会長は高木 泰先生（久喜市）、続いて中村泰三先生（蕨市）が長く勤められた後、富田有祐先生（越谷市）、峯 真人先生（さいたま市）と続き、平成22年度より私が勤めております。埼玉県小児保健協会の設立から運営に当たっては中村泰三先生のご尽力がとて大きく、設立から現在に至るまでその功績は多大であります。私も平成4年に埼玉に転職してから多くの教えを受けましたし、医師としてだけではなく人間的にも尊敬している人生の大先達です。中村先生は地域医療にも貢献されるとともに、日独交流にも大きな役割を果たしてこられました。また詩人としての側面をお持ちであり、「北緯38度線」、「弾劾の季節」、「中村泰三詩集」、「黄昏の陽だまり」など多くの詩集、詩文集を出しておられ、作詞家としても著名であります。私も何冊かを拝読しましたが、やさしさと感性にあふれた親しみやすい詩の数々です。2010年に出た「黄昏の陽だまり」はぜひご一読をお勧めします。これらの功績により、ドイツ連邦共和国功労勲章「功労十字小綬章」、「勲五等瑞宝章」など多くの賞を受賞しております。

埼玉県小児保健協会の運営の特徴は、医師に偏らず、小児保健にかかわるさまざまな方に参加していただけるよう努力してきたことです。当初より大学医局に事務局を置くことなく（設立当初の事務局は埼玉小児保健センター、現在は埼玉県立小児医療セ

ンター）、また歴代の会長も大学人ではないことも特色です。そうした経過から理事には歯科医師、保健師、看護師、養護学校、保育園、埼玉県健康づくり支援課、埼玉県教育委員会など横断的な構成になっています。理事会などでも活発な質問や討議が行われています。

現在は春と秋に研究会を開催しており、いずれも参加しやすいようにと土曜日を中心に行っています。特別講演とシンポジウムが中心ですが、希望による一般演題も受け付けています。研究会の開催に当たっては毎回、参加者の評価と今後の希望テーマを募集するようにしており、評価の高い講演は再度組み込む、希望の多いテーマはなるべく取り上げるということに留意し、これらによって最近の参加者も増加しています。近年は予防接種に毎年のように変更がみられることから、春の研修会の最後には埼玉県立小児医療センターの松永光平先生に予防接種についての講演をお願いしています。平成21年の秋には保育園保健協議会のブロック研修会と22年の秋にはこども学会との共同で研究会を開催しました。毎年教育セミナーなども行っており、多数の参加者があります。これらをまとめて毎年度、さいたま小児保健として出版しています。

最近の研究会で印象に残った講演は、早乙女智子先生による思春期の性、高橋久仁子先生による子どもの食の問題、吉岡明美先生による子どもの運動発達などです。ぜひ他の地域でも多くの方に聞いていただきたい内容でした。最後になりますが、埼玉県立小児医療センターの南谷幹之先生には事務局として多大な貢献をしていただいております。感謝の意を表したいと思います。

埼玉県小児保健協会
〒339-8551 埼玉県さいたま市岩槻区馬込2100
埼玉県立小児医療センター保健発達部内